

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 田井 恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	安全パトロール実施事業
事業実施前の状況	<p>実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校日を中心に、H20年は、1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、H21年は、1日4回に組み直して実施した。</p> <p>H24年は、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻に応じてスケジュールの見直しを行った。H25年度は、1回1時間、1日2～3回のパトロールを実施した。</p> <p>H26年度は、登校予定日、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻の違いに応じて、より細かくパトロールスケジュールの見直しを行い、月曜日から金曜日の間、7時30分から1時間、15時50分から1時間、19時から1時間の1日3回のパトロールを実施した。</p> <p>H27年度以降は、小中一貫校のほそごう学園に統合されたことにより、細河地区の中学生、小学生はスクールバスで登下校することになり、主に伏尾台地区の小・中学生の登下校を見守ることになった。</p> <p>朝の登校時に定点立ちを主に行う挨拶運動、下校時に合わせた午後アナウンスを行う走行によるパトロール、夜間アナウンスが可能な時間帯の走行によるパトロールを継続して行った。</p> <p>H27年10月以降、コミュニティプラザを開設してからは、青パト車の駐車場をプラザの南側に設定できたので、隊員のアクセスが良好になった。</p>

<p>事業名</p>	<p>安全パトロール実施事業</p>
<p>事業実施後の状況</p>	<p>巡回スケジュールは、日中は、ほそごう学園の開校日並びに登校・下校時間に合わせて行い、巡回のみならず定点パトロールと挨拶を実施し、また、夜間の巡回を併せて行うように計画した。</p> <p>安全パトロールは、通年、一回当たり1時間これを実施した。巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするように心がけた。</p>
<p>事業の効果</p>	<p>パトロールを継続して行った結果、空き巣等の防止に繋がり、防犯カメラ事業との相乗効果も有り、毎年空き巣犯罪“0”を更新できていたが、H27、28年度は侵入盗事件が各1件発生した。また、29年度並びに30年度は不審者情報が多数回寄せられているため、巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするように心がけた。</p> <p>朝のパトロールは走行よりも主に定点立ちとし、小中学生を始めとする学生、通勤者らにあいさつの声掛けを積極的に行うことができた。</p> <p>下校時並びに夜間の巡回時には、車載スピーカーを用いた放送により、登校下校時の子供の見守り、戸締まり方法、不審なセールス、アンケート調査への注意、夜間の不法駐車禁止を呼びかけることができた。</p>
<p>今後の課題等</p>	<p>隊員の減少と現隊員からの出動時間帯の変更の申し出、さらに夕刻以降の乗務希望者が大きく減少することから、運行スケジュール立案が事務担当者の大きな負担である。</p> <p>運行スケジュールの立案とともに、実施者証の更新講習会の開催手配と、新入隊員への受講手配、保険加入申込み、車両の整備、燃料補給等などの事務方の処理量が増大している。</p> <p>大遊協から提供された青パト車が配備されたが、その頃から除隊の申し入れが多くなり、隊員補充が進まず、2台のパトロール車体制の構想が実現できていない。</p>

令和元年 6月 3 日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 田井 恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	防犯カメラ設置管理事業
事業実施前の状況	<p>H22年度に伏尾台への出入口道路である国道側と川西側の2か所に通過車両を撮影できる防犯カメラを設置した。</p> <p>H24年度に第2コミセン南側と細河中学校の南側交差点に防犯カメラを設置した。</p> <p>H25年度、北高校の周回路北側の中央付近から西方向に向けて1台、同周回路の南東のT字交差点に東西方向に向けて2台の防犯カメラを設置した。</p> <p>H26年度、北高校の周回路北側の中央付近から東方向に向けて1台の防犯カメラを設置し、旧伏小付近を撮影可能にした。伏尾台への出入口道路である国道側と川西側の2か所に設けたカメラ支柱を利用して夜間撮影が強化されたカメラを増設した。</p> <p>14台の防犯カメラの設置によって、地域に出入りする車両並びに歩行者をもれなく撮影し得る状況となった。また、既設カメラとレコーダーはメンテナンスされた。</p> <p>H28年度、H22年度の4台が市の維持管理下に置かれ、H29年度は、協議会の維持管理下にある防犯カメラは10台となった。</p>

事業名	防犯カメラ設置管理事業
事業実施後の状況	<p>H30年度は、新吉田橋北側の国道に向けてのカメラが撤去されたが、国道交差点に市の無線管理カメラが設置され、また、川西側への出入り口のカメラも市の無線管理カメラに交換されて、地域に出入りする車両並びに歩行者をもれなく撮影し得る状況となり、緊急時の記録の開示要求に応じられる体制となった。</p> <p>また、旧北高周回路の南東のT字交差点に東西方向の2台のカメラのうち、東側のカメラが市の無線管理カメラに交換された。事業提案の既設カメラ6台がメンテナンスされた。</p> <p>さらに、声かけやいたずら事案が報告されて設置を危機管理課へ要望していた、中央公園のトイレ付近の防犯カメラが、H30年度に設置された。</p>
事業の効果	<p>警察の捜査にも協力でき、同時実施の安全パトロール事業での青パトロール車の巡回、地域内の防災防犯委員会並びに自治会の防犯活動と相まって、毎年空き巣事件“0”を更新していたが、H27、H28年に侵入盗が各1件発生した。</p> <p>H26、H27年、認知症の方が行方不明になったが、伏尾台から出ていない記録が確認でき、住民で捜索して無事発見できた。</p> <p>H29年度は、例年通りの数回の池田署からの開示要求があり、立会い対応を行なった。</p> <p>H30年度は、池田署からの開示要求に伴う立会いを行っていた防犯カメラが市の管理カメラに交換されたことにより、立会い対応を行う必要がなかった。</p>
今後の課題等	<p>必要箇所には防犯カメラが設置されているので、地域内に防犯カメラの増設を行うべき特段の理由はなくなり、今後は維持管理が主になり、経年変化により故障するカメラが今後増えることへの対応など管理業務を強化する必要がある。</p> <p>特に落雷によるサージ電流により作動が停止することがあるが、既設で協議会の管理下にある6台はいずれも目視等で確認することができず、年1回のメンテナンスではその後の落雷の影響を確認することができない。</p>

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 田井 恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業
事業実施前の状況	<p>コミュニティ推進協議会の活動拠点としての西公園事務所は、伏尾台周回道路沿いで西公園南側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報活動を行っている。</p> <p>また、西公園事務所は、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会議の他、年末の防犯防火の巡回拠点として活用してもらっている。さらに、地域内に季節毎の花を植える活動を行う地区福祉委員会の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。</p> <p>平成27年10月3日に伏尾台コミュニティプラザを開設してその中に協議会事務所機能を移して、フリーサロン、子育て支援ルーム、まちの情報センターの運営を行なった。このプラザ事務所には光ケーブルを引きコピー・ファックス複合機を備えて事務所機能を充実させた。</p> <p>西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。西公園事務所は、元来老朽化した床の損傷が進行したため、東側の半分の床の張り替えを行なった。</p> <p>月曜日から金曜日のコミプラの開館日に、3交代でスタッフが留守番を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。</p> <p>コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、平成28年度は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,903名、平成29年度は、通年で7,870名で、子育て支援ルームのみの利用者は、約2,377名であり、フリーサロンなどへは 約5,493名が来訪された。</p>

事業名	地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業
事業実施後の状況	<p>西公園事務所とプラザ内事務所との両方で協議会活動を実施した。</p> <p>月曜日から金曜日のコミプラの開館日に、3交代でスタッフが留守番を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。</p> <p>地域活性化事業のコンサート、落語の開催と事務処理等もコミプラ、本事務所で行なった。</p> <p>平成30年度の伏尾台創生会議2020の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。また、夏祭り実行委員会の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行われた。</p> <p>伏尾台地域に入っすぐの目立つ立地条件のもと、webでのグーグル地図にも「伏尾台コミュニティ推進協議会」と表示され、そのストリートビューには黄色い看板が目立っていたが、強風の台風で落下寸前となったため、直ちに撤去した。</p>
事業の効果	<p>コミュニティ推進協議会はもとより、防災・防犯委員会並びに地区福祉の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。</p> <p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,597名である。子育て支援ルームのみの利用者は、約2,309名であり、フリーサロンなどへは 約5,288名が来訪された。</p>

事業名	地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業
今後の課題等	<p> コミプラのフリーサロンの利用者数は現象傾向にあることから積極的な利用を図りたい。高齢者の居場所づくりを充実させたい。また、子育て支援ルームの利用は年々減少していることは、人口減少もあるが、他の利用者を対象にするなどの問題解決が必要である。社協のファミリーサポート事業の会場として利用するシステムを創設する作業を行なっているが、利用者の増加には結びついていない。 </p> <p> プラザ事務所としては、コミュニティプラザがボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、まちの不動産情報、特に空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。 </p> <p> コミプラの留守番役のスタッフ、掃除スタッフを現在10名のボランティアでローテーションを組んでいるが、依然として、絶対数が大幅に不足し、募集を行うも応募が全くないことが、運営上切迫した問題である。 </p> <p> 平成29～31年度事業検討として、伏尾台の特色ある公園作りを目指しており、西公園の再整備案とともに、西公園事務所には、遊歩道側に独立したトイレが設置されているので、これを整備して遊歩道側に解放することで、散歩中の人や隣接する西公園を訪れる地域の方に利用してもらえようしたい。 </p>

平成30年 6月 3 日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 田井 恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	コミュニティサロン設置事業
事業実施前の状況	<p>伏尾台には2つのコミュニティセンターがあるが、利用には事前予約が必要であり、散歩の途中に立ち寄り休憩する処、待ち合わせや談笑する処、急に自治会の役員同士が打ち合わせする際など、気軽に利用できる施設がなかった。</p> <p>平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には名簿に記載をお願いした結果、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。</p> <p>平成28年度は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,903名、平成29年度は、通年で7,870名で、子育て支援ルームのみの利用者は、約2,377名であり、フリーサロンなどへは 約5,493名が来訪された。</p>

事業名	コミュニティサロン設置事業
事業実施後の状況	<p>利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせやバスの時間待ちを行う方、フリースクールに通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の裁縫などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、小学校、中学校の宿題をグループで行う生徒、談笑するグループ、読書、昼食をする親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物帰りに商品を仕分けする方、食事をする学生などまさにフリーサロンとして利用されている。</p> <p>宿題カフェ会場として利用されている。</p> <p>伏尾台創生会議2020、夏祭り実行委員会の会議、事務に利用されている。</p> <p>里山の植物を紹介しているグループの展覧会場として利用された。</p> <p>ほそごう学園の地域学習の会場として利用されている。</p> <p>総務省の推進事業で、池田市の伏尾台送迎サービス社会実験の会場として10月から12月に利用され、協議会会員がボランティアとして参加した。</p> <p>地域交通の未来を考える公開講座の会場として利用された。</p> <p>高齢者の居場所づくり意見会の会場として利用した。</p>
事業の効果	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,597名である。</p> <p>子育て支援ルームのみの利用者は、約2,309名であり、フリーサロンなどへは5,288名が来訪された。</p>
今後の課題等	<p>さらに利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講演、各種教室などの企画とともに、一時保育所の運営、高齢者と子どもたちが一緒に夕食を食べる「コミプラキッチン」の運営を行うなどの活動が必要であると考え、令和元年度の実施を予定している。</p> <p>また、コミプラ自体が「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後はまちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。</p>

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 田井 恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	まちの情報センター運営事業
事業実施前の状況	<p>伏尾台にはコミュニティセンターやバス停の掲示板があり、自治会からのお知らせなどが掲示されているが、ボランティアの需要や供給に関する情報収集や提供がなかった。</p> <p>平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。</p> <p>平成28年度は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,903名、平成29年度は、通年で7,870名で、子育て支援ルームのみの利用者は、約2,377名であり、フリーサロンなどへは 約5,493名が来訪された。</p>
事業実施後の状況	<p>フリーサロン内の壁を掲示板として活用し、まちの情報を、「地域学校行政」「地域環境」「安心安全」「協議会」「コミプラ」「子育て支援」「各種支援」「ボランティア活動」の 카테고리に分けて種々掲示している。各種の活動紹介の依頼や、ポスターの掲示を願い出られるなど多くのグループに利用されている。</p> <p>ほそごう学園、フリースクール、地区福祉、社協、池田署、防犯委員会、人権文化交流センター、池田市公益活動促進協議会の広報紙などを展示している。</p> <p>市のキオスク端末が設置されて、行政証明書の発行手続き、写真印刷やコピーに住民が利用している。</p>

事業名	まちの情報センター運営事業
事業の効果	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,597名である。</p> <p>子育て支援ルームのみの利用者は、約2,309名であり、フリーサロンなどへは5,288名が来訪された。</p>
今後の課題等	<p>フリーサロンは、日々は子育て支援ルームに訪れる母子、ほそごう学園の生徒が中心に利用しており、山びこフェスタのイベントの際や自治会、伏尾台創生会議、伏尾台夏祭り実行委員会などの会議の際には、伏尾台住民が多く利用されるので、「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後もボランティア活動のみでなく、まちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。</p> <p>キオスク端末の利用者数が、マイナンバーカードの普及率がまだ低いことから低迷している。</p>

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 田井 恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	子育て支援環境整備事業
事業実施前の状況	<p>平成22年度より、伏尾台第1コミュニティセンター内の一室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後も毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。</p> <p>平成26年度は、会員は67組(134人)、ボランティア会員(12名)で構成され、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。年間、121組(延べ242人)の利用があった。上記活動の他、七夕とクリスマス時期の年2回、入園前会員宅を訪問して、手作りカードの贈呈、子育ての悩み等の聞き取りを行う活動を、延べ82回(延べ246名)行った。子育てサロン「フレンズ」を卒業した会員による「親子で遊ぶ会」を8月と12月実施し、23組(延46人)の参加があった。</p> <p>平成27年度は、4月から9月は32組、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて子育てサロン「フレンズ」を開設した。母子99名、スタッフ72名、延べ171名の利用があった。10月3日より、伏尾台コミュニティプラザが開設されて、子育て支援ルームにて活動を行う。10月3日から3月末までの半年間では、子育て支援ルームにて、母子1202名、スタッフ241名、延べ1443名の利用があった。</p> <p>平成28年度は、登録会員数は76組、利用者数は母子2,276名・スタッフ393名の延べ2,669名であった。</p> <p>平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。ママの会・卒会員幼稚園児夏休みの集い・AED講習会・ほそごう学園スクールカウンセラーとの交流会2回・キッズコンサート・小児科医座談会を開催した。</p>

事業名	子育て支援環境整備事業
事業実施後の状況	<p>コミプラ内子育て支援ルーム登録会員数は90組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,309名となり、母子交流の場として定着し、孤独な子育てから親子を守ると言う目的を達成することができている。</p> <p>利用者数は年々減少傾向にあり、伏尾台の人口構成からやむを得ないこともあるが、利用者を増やすために、社協のファミリーサポート事業との連携を進めており、説明会と登録会をそれぞれ2回開催した。</p>
事業の効果	<p>フレンズを中心に、社協子育てサロン、ホップ君、自主サークルひよこと連携しての場となっている効果は大であり、細河地区や、池田市内、里帰り母子の利用も増え、ほそごう地域の親子の絆が深まる効果が出ている。</p> <p>ママの会・卒会員幼稚園児夏休みの集い・AED講習会・ほそごう学園スクールカウンセラーとの交流会を開催し何れも好評を得た</p> <p>月に二度、伏尾台文庫に依頼しての読み聞かせ会が、本に親しむ機会となり、七夕・クリスマスに手作りカードを持参しての恒例の家庭訪問実施は悩み相談の機会となっている。</p>
今後の課題等	<p>幼児や未就園児を対象に子育て支援を行っているが、園児や小学校低学年の子供たちの支援を要望される保護者や家族が多いので、幼稚園児の受け入れを開始したが、乳幼児とは行動・適齢玩具が異なり、乳幼児向け支援室での受け入れは課題が多いため、H30年度半ばから受け入れを中止した。</p> <p>新たな未就園児の親子への広報活動並びに新規登録等の事務処理、さらに就園児となった親子らとの交流、相談で訪れる母親への支援者が全く足りない。</p>

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 田井 恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	AED管理事業
事業実施前の状況	阪急バス車庫事務所、伏尾台センターコープ店舗内に設置した。これまで使用されたことがないが、緊急時に備えてメンテナンスが必要である。平成29年度は伏尾台センターコープ店舗内に設置したAEDにおいて、設置から7年を経過したAED装置本体を交換して、引き続き使用可能な状態を維持した。
事業実施後の状況	阪急バス車庫の事務所内に設置したAEDにおいて、パッドを交換して、引き続き使用可能な状態を維持した。また、定期的に設置状態の確認を行うことが必要であり、これを実施している。
事業の効果	毎日、午前9時から午後9時まで開店しているコープ店舗内と、24時間常駐されている阪急バス車庫の事務所内に、AEDが使用可能な状態で常備されることになった。
今後の課題等	毎年9月に防災防犯委員会の委員で使用訓練を実施し、毎年11月に総合防災訓練で参加者に使用体験を実施しているが、さらに住民向けの使用訓練の機会を設けることが必要である。 コープ店舗には住民の多くが訪れ、AEDが利用される可能性が高いが、阪急バス事務所の場合はこの場所まで取りに行くことより救急車を呼ぶ方が効率的であると想定できるため、同事務所のAED本体の交換時期が到来した場合、その設置を継続しないことを確認した。

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3

協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)

会長名 田井 恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	市民レクリエーション大会事業
事業実施前の状況	<p>伏尾台校区住民がスポーツに親しみ気軽に参加できる機会を設け、幼児から高齢者まで楽しみ交流を深めて地域の活性化を図る目的で、伏尾台校区市民レクリエーション大会実行委員会を組織し、自治会連合会の協賛のもと、伏尾台大運動会を行ってきた。各自治会の組織率の低下にともない、自治会からの参加者並びに協賛金も大きく低下している。</p> <p>主に夏祭りの開催に要する労力が大いなる負担として、組織率の大幅な低下を理由に自治会連合会を脱会する自治会が出ることにより、平成26年度末で自治会連合会が解散となった。</p> <p>これにより平成27年度の自治会連合会による参加者集めができなくなるため、運動会の中止が懸念された。</p> <p>平成27年度から夏祭りが住民有志による実行委員会形式で開催されることが同年4月に決定されることに伴い、運動会開催に自治会が参画することが決定された。</p> <p>その後も、毎年4月の年度初めに、伏尾台夏祭り実行委員会と伏尾台スポーツ振興会とが、5地区の自治会と話し合いを行い、自治会が夏祭りや運動会の後援を行うことの意味確認を行っている。</p>

<p>事業名</p>	<p>市民レクリエーション大会事業</p>
<p>事業実施後の状況</p>	<p>平成30年度も夏祭りが住民有志による実行委員会形式で開催されることが4月に決定され、自治会の負担が減少することから、運動会開催には、各自治会が参画することが決定された。</p> <p>自治会協賛金の低下を補う形の補助金として、必要な運営費用を賄うことが可能になった。</p> <p>毎年、参加者の高齢化と運動量の減量を求める意見を考慮して、午前中心のプログラムに変更した結果、多くの住民が参加して楽しめるスポーツ大会を開催できた。</p>
<p>事業の効果</p>	<p>実行委員会並びに自治会の役員、ボランティアスタッフともに運営が積極的に行われ、又、各自治会の参加者募集の努力がなされ、ここ数年は、参加者数がようやく前年並を維持できる運動会であった。</p>
<p>今後の課題等</p>	<p>協議会と本事業の実行委員会とは、本事業についての協議が十分には行われていない。</p> <p>協議会としては、少子高齢化が急速に加速する伏尾台では、幼児から高齢者までスポーツを楽しみ交流を深めて地域の活性化を図る初期目的に立ち返り、ゲームの要素を取り入れたり、1日1～2時間を四季ごとに行うなど、従前とは異なる別形態の運動会を提案している。また、細河地域で行われている子供中心のミニ運動会の開催も有効であると考えている。</p>

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 田井 恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	地域コミュニティ紙等発行事業
事業実施前の状況	<p>伏尾台では、協議会の広報紙の発行に際し、紙面の作成、印刷、地域全戸配布の全てを、協議会会員のボランティアで実施し、費用は紙代等の実費のみであったが、協議会員への負担は極めて大きかった。</p> <p>平成26年度の第12号広報より市の広報紙と共に全戸配布した。さらに、2月末に市の広報紙と共に、平成19年に発足し8年を経過した伏尾台コミュニティ推進協議会の活動の成果を地域の地図を用いて紹介した第13号広報を全戸配布した。</p> <p>さらに伏尾台地域活性化事業で行う年3回の「山びこフェスタ開催案内」ポスター、回覧の広報活動を協議会員の手配りで実施した。</p> <p>平成27年9月末に市の広報紙と共に第14号、新設の伏尾台コミュニティプラザの様子を表紙にした広報を全戸配布した。</p> <p>平成28年2月末に市の広報紙と共に第15号、子育て支援ルームの様子を表紙にした広報を全戸配布した。</p> <p>平成29年3月に、「伏尾台[子育てにやさしいまち]宣言」の横断幕が設置され、ライトアップ機器が装着された新吉田橋の様子をカラー表紙にした広報紙第16号を伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成29年8月26日の第43回伏尾台夏祭りの夕方の様子カラー表紙にし、平成29年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第17号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成30年3月末、平成19年に発足し10年を経過したコミュニティ推進協議会の活動の成果を、青パトが走る年表の表紙と見開きページの地域地図を用いて紹介し、今後に向けての活動方針と歴代会長のコメントを記載した広報紙第18号を全戸配布した。</p>

事業名	地域コミュニティ紙等発行业
事業実施後の状況	<p>平成30年10月7日の第39回伏尾台大運動会の様子をカラー表紙にし、平成30年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第19号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。</p> <p>平成31年3月末、平成最後の1～3月に開催した創生会議の土曜祭の会場となった旧伏尾台小学校南校舎を表紙にし、見開きページに協議会の下半期の活動、平成31年度の提案事業、地域創生プランが創生会議から協議会に引き継がれる旨の報告を記載した広報紙第20号を全戸配布した。</p>
事業の効果	<p>平成29年度から定着した、上半期、下半期の年間2回、カラー版で個別の全戸配布の広報紙とすることで、活動の紹介、協議会入会、アンケート回収や安全パトロール隊員の応募などを広報できた。</p> <p>特に、平成30年3月末発行の広報紙第18号は、地域分権制度の10年とこれからの活動を紹介した特別号保存版としており、8年間の活動を紹介した第13号と同様に全戸配布以外に約1500部を余分に印刷しており、協議会活動の紹介紙として活用できている。</p>
今後の課題等	<p>「山びこフェスタ開催案内」のポスター、回覧チラシにより、イベントが盛会に催しされたが、会員の負担を減らすため「山びこフェスタ開催案内」をe-mail、ホームページ、SNSなどで広報できるように考えていきたい。</p>

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 田井 恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	防犯防災啓発事業
事業実施前の状況	<p>伏尾台防災・防犯委員会は、地域の5つの自治会より配分される50円×1200戸以下の予算で運営されている。毎年の総合防災訓練は、参加人数が300名程度で自治会からの配分予算では厳しい状況である。(平成29年度1181戸毎年減少)</p> <p>平成27年度は、第二コミセンの建屋に隣接していた防災備蓄倉庫を敷地内に移設しアクセスし易くした。平成28年度は、8月6日、10月1日に避難所開設運営図上訓練を行い延120名が参加した。8月27日は、防災/防犯委員会が伏尾台夏祭り会場で、延べ37名にて無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。9月23日は、津波・高潮ステーションと大阪市水上消防署の見学に14名が参加した。11月6日は、ほそごう学園にて防災総合訓練が行われ、参加者は300名に達した。12月27日、29日、30日の年末特別警戒には、延べ95名が参加した。</p> <p>平成29年度は、4月22日防犯教室を開催し30名の参加を得た。6月3日住宅耐震対策研修会を開催し48名の参加があった。7月8日、4箇所の防災備蓄倉庫の資機材点検を行った。8月5日と6日に旧伏小にて防災キャンプを実施し、45名の参加を得た。星空観察会の60名とともに避難所設営を見学した。8月26日は、伏尾台夏祭り会場で本委員が延べ42名にて無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。10月7日防災訓練役割分担訓練を行い58名の参加を得た。11月5日はほそごう学園にて防災総合訓練が行われ300名の参加を得た。11月25日、高槻京大地震観測所見学会を開催し、16名の参加を得た。12月27日、29日、30日の年末特別警戒には延べ105名が参加した。2月3日、災害時に役立つ防災グッズづくり実習会を開催し、39名の参加を得た。</p>

事業名	防犯防災啓発事業
事業実施後の状況	<p>4月21日防犯教室を開催し35名の参加を得た。6月18日大阪北部地震に伴い地域内の安全確認、点検を行った。</p> <p>7月8日、4箇所防災備蓄倉庫の資機材点検を行った。</p> <p>8月4日に、災害時安否確認対策として災害時声かけ協力員の登録制度を整備して、88人の登録を得た。</p> <p>8月25日は、伏尾台夏祭り会場で本委員が延べ45名にて無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。</p> <p>10月6日に安否確認・避難誘導マニュアル訓練を行い58名の参加を得た。10月19日に普通救命講習受講13名参加。</p> <p>11月4日はほそごう学園にて8年生全員が学校行事参加し防災総合訓練が行われ350名の参加を得た。11月15日、大阪府警本部交通管制センターの見学会を開催し、23名の参加を得た。</p> <p>12月27日、29日、30日の年末特別警戒には延べ110名が参加した。</p> <p>2月2日、大阪府警本部主催の特殊詐欺撲滅特別キャンペーンに参加、18名の参加を得た。</p> <p>3月2日、安否声かけ協力員とともに合同の阪神淡路での声かけ避難誘導・避難所体験講習会を開催し、60名の参加を得た。</p>
事業の効果	<p>特殊詐欺被害が増大しているが、伏尾台でも電話を受けた人の体験談を多く聞くことができ、被害防止の意識が高まった。</p> <p>安否確認・避難誘導マニュアル訓練並びに阪神淡路の際の体験談講演は、非常時の想定を実体験でき意識高揚に極めて有効であった。</p> <p>夏祭りでの通行止め区間の4箇所での夜間照明並びに無線連絡と相まって安全に交通整理が実施できた。</p> <p>総合防災訓練での必要経費を補助金で賄うことができ、350名の住民に7項目の訓練を受けて頂いた。</p> <p>交通管制センター見学会、特殊詐欺撲滅キャンペーンでの知見について参加者全員に感想文を書いてもらい交通問題や防犯意識が高まった。</p> <p>普段からの声かけや挨拶の習慣が災害時に役に立つことを知ることができた。</p>
今後の課題等	<p>総合防災訓練時の引率リーダーの養成のための教育カリキュラムとして、普通救命講習と備蓄資機材の使用訓練を行うこと、知識を深め、意識を高める見学会などの要望があった。</p> <p>防犯、防災委員のみならず、災害時の安否声かけができる体制の確立、近所づきあいを深める活動が必要であるとの意見が多い。</p>

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 田井 恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	地域行事等活動促進事業
事業実施前の状況	<p>子供会活動が衰退し、2丁目自治会、北自治会では子供は大勢いるが、恒例の夏まつりで子供御輿の巡行が2丁目だけできなかつた。平成25年度に軽量であるが、本御輿と同様の外観を有する子供御輿を新調することが協議会で決定されて以来、子供会の再編を含めて活動の強化を図る方策が種々取られた。</p> <p>そして40周年記念となる夏祭りが平成26年8月23日に開催され、新調の子供御輿が大活躍した。育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、27年度は2丁目と3丁目の子供会が合併して子供会が無かつた2丁目北自治会の子供たちが2・3丁目子供会に入会する強化策が取られることになった。</p> <p>第40回記念の夏祭りを開催するも自治会活動のうち最も負担が大きいことから、平成26年度末をもって自治会連合会が解散となり、平成27年度の夏祭りが自治会主催で行われないことになった。</p> <p>しかし、住民有志による第41回夏祭り実行委員会が立ち上げられ、夏祭りが平成27年8月22日に開催された。また同じメンバーによる第42回夏祭り実行委員会は、平成28年8月27日に夏祭りを開催し、さらに平成29年8月26日に第43回夏祭りが開催された。</p> <p>一方子供会は、1丁目子供会と2丁目から5丁目まで全てが統合されたわんぱく子供会の2組織になった。</p>

事業名	地域行事等活動促進事業
事業実施後の状況	<p>平成30年度も、住民有志による第44回夏祭り実行委員会が立ち上げられて夏祭りが平成30年8月25日に開催された。</p> <p>当日午前8時より12時30分まで、1丁目三角公園より子供御輿が本神輿とともに巡航を始め、1丁目を巡航し、西公園で子ども御輿が4,5丁目へ引き渡され、次いで3丁目を巡航した。</p> <p>午後からの夏祭り第二弾としてのスポーツ振興会主催のゲーム大会を開催した。</p> <p>会場の伏小南校舎前に特設ステージを設け、午後5時からの音楽、ダンス、よさこいなどがフェスティバル形式で開催された。続いて、打ち上げ花火が行われた後7時30分より盆踊りを主とする夏祭りが開催された。</p> <p>伏尾台地区の子供はもちろん、細河地区の子供たちのみならず、石橋、池田、川西地区からも多く参加し、ここ数年で一番の参加者があった。多くの参加者が惜しむ中、9時30分に終了した。</p>
事業の効果	<p>育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、協議会の委員としても子供会の新旧の校区長が毎年加入していただき、さらに複数年度にわたり活動に参加してもらっている。</p> <p>夏祭り実行委員会が自治会に開催協力と参加要請を行い、さらに地域の団体、商店などに広告募集を行うなど、地域のコミュニティ作りに貢献している。</p>
今後の課題等	<p>活動が活性化した子供会では、新調の子供御輿の巡行を望んでいるので、毎年夏祭りが開催されるようにしたい。</p> <p>住民有志による夏祭り実行委員会には、さらに多くの住民の参加が期待できる新しいフェスティバル形態の夏祭りを企画して成功を収めることができたので、さらにステージを活用した企画をお願いしたい。</p> <p>また、伏小南校舎の跡地活用に関連し、校舎周辺の整備の計画があるので、これと連携して、恒久的なステージを整備できると良い。</p> <p>第44回夏祭りは、人出が多く、それと共にゴミが増加したが、例年の校舎北側の倉庫を利用したゴミ分別が機能しなくなり、大量のゴミ処理に苦労したため、グラウンド内にゴミ分別収集箇所を設置したい。</p>

令和元年 6月 3 日

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
会長名 田井 恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	伏尾台地域活性化事業
事業実施前の状況	<p>毎年2～3回の音楽コンサート、1～3回の落語会を開催し、既に22回開催してきた。季節を感じられるイベントとして地域に「ふしおだい山びこフェスタ」と認知され定着している。</p> <p>平成28年度は、野外コンサート1回、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会1回を開催した。</p> <p>平成29年度は、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会2回を開催した。</p>
事業実施後の状況	<p>5月12日、コミュニティプラザ内で、アブサントクインテットによる音楽ライブを、伏尾台センター夢の広場公園での地区福祉委員会のフリーマーケットと共催の形で行った。</p> <p>7月7日、コミュニティプラザで、林家菊丸の山びこ寄席を予定したが、台風の影響で伏尾台内で避難者がおられることで中止した。</p> <p>9月15日、コミュニティプラザ内で、リピート山中の歌とトークのコンサートを開いた。</p> <p>11月10日、コミプラにて、林家菊丸、月亭天使の落語の会を開いた。</p> <p>2月2日、コミプラにて、林家染座+お囃子付きで落語の会をコミプラにて開催した。</p> <p>山びこフェスタの開催が27回になった。</p>

事業名	伏尾台地域活性化事業
事業の効果	<p>コミプラでの開催時は定員が90名であるが、途中の入れ替わりもあった。</p> <p>5月12日 「アブサントクインテット」 2.0時間 100人 9月15日 「歌とトーク」 1.5時間 80人 11月10日 「落語会」 1.5時間 80人 2月2日 「落語の会」 1.5時間 90人</p> <p>広報誌のとおり、2回のコンサート、2回の落語会ともに盛会であり、地域住民の憩い並びに交流を深めることができた。</p>
今後の課題等	<p>例年通り、参加者は異口同音に伏尾台で生で音楽や落語が楽しめて良かったと言い、継続要望が多かったが、参加者にボランティアスタッフを呼びかけるが応募が全くない。</p> <p>また広報の仕方により参集の人数が異なること、天候に左右されやすいことなど集客に課題が多い。</p> <p>地域住民の憩い並びに交流を深めることができ、定着して楽しみにされてる方が増加していること、音楽のジャンルで参加される方の顔ぶれが変わることが確認できた。</p> <p>令和元年度こそ、コミプラには寄付でいただいたアップライトピアノをメインにした音楽会を開催したい。</p>

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 田井恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	伏尾台地区住民清掃事業
事業実施前の状況	<p>伏尾台地区の各丁目ごとの5つの自治会は、それぞれ各丁目単位で住民清掃が定期的に行われていた。伏尾台の住民相互の交流と地域の環境を考える機会として、1つのテーマで住民が清掃に取り組むことがなかった。</p> <p>平成29年度は、伏尾台1丁目の銀杏並木の管理をテーマにし、伏尾台住民とほそごう学園の1、2年生の生徒ともに清掃を行い集めた落ち葉を府立池田北高校の校庭に運び入れ、池北の生徒、教職員と共に焼き芋を作り、全員で焼き芋を頂きながら、伏尾台在住の大阪大学名誉教授、木下修一氏の「芋とイチョウ」話を聞きました。平成30年3月に閉校が予定されていた北高生とともに、ほそごう学園の1、2年生、地域住民と一緒に環境について考える機会となり、まさに地域コミュニティの推進を図ることができた。</p>
事業実施後の状況	<p>本事業を実施することができなかった。</p> <p>平成30年度も前年同様趣旨のほそごう学園生と地域住民との共同の清掃事業を行うべく、本協議会が学園、自治会との協議を進めて、いくつかのイベントが計画されましたが、三者の都合を合わせることもなかなかできずに、開催の時期を失することになり、イベントの計画を断念することとなり、本事業を実施することができなかった。</p>
事業の効果	なし
今後の課題等	<p>令和元年度は、旧伏尾台小学校の南校舎を用いて、多世代交流施設を開設する予定であり、閉校した府立高の跡地周辺の環境保全と共に、地域内の主要な6つの公園の整備などを念頭に、伏尾台地区全体の環境整備、清掃問題に取り組みたい。</p>

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3

協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)

会長名 田井 恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	ほそごう地域花いっぱい運動支援事業
事業実施前の状況	地区福祉委員会並びにほそごう地域コミュニティ推進協議会(細河地区)と共同して、ほそごう学園が行う地域花いっぱい運動、7年生と3年生がパンジーなどを育てて、大きくなった苗を地域の学校、保育所、老人ホームなどに配り、やさしい環境作りを行う)を支援していた。
事業実施後の状況	本年度もパンジー、ビオラのプラグ苗を約1000株を育成用土、肥料等を用いて、大阪府の補助を受けた3年生と本事業の7年生の生徒が共同して予定どおり育成することができた。育成したパンジー、ビオラは、平成30年12月11日に、贈呈出荷式をほそごう学園で行い、地域の学校、保育所、老人ホーム、コミプラなど17施設に配り、やさしい環境作りを行うことができた。
事業の効果	ほそごう学園地域の地区福祉委員会並びにコミュニティ推進協議会が全て共同して、3年生と7年生が行う学校、保育所、老人ホームなどへ花の贈呈活動を支援することができ、地域全体の活動として定着してきた。
今後の課題等	今後は、義務教育学校となったほそごう学園とともに、さらに地域全体の活動としての意義が高まるため、継続して活動していきたい。大阪府の補助金が打ち切られたため不足分を補う必要がある。

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 田井恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	高齢者の居場所づくり事業
事業実施前の状況	平成27年10月に伏尾台コミュニティプラザを開館して以来、サロンの利用者は、子育て支援ルームを中心とした母子の利用、ほそごう学園生の利用が多く、写真展などのイベントや山びこフェスタの開催時には高齢者が多く集うが、高齢者の居場所としては、利用者が少なかった。
事業実施後の状況	伏尾台コミュニティプラザにおいて、高齢者が集い一緒に食事できる夕食会（タベルナコミプラ）を、9月2回、1月3回、3月4回の合計9回、開催した。述べ88名の参加があった。
事業の効果	高齢者同士と一緒に夕食を楽しめる環境を提供して、高齢者らの交流を促進するとともに、まちのことや身の回りのことについて話し合い、高齢者の意見を伺うことで、まちづくり、居場所づくりの多くの意見を収集することができ、町全体のコミュニケーション能力を向上させることができた。
今後の課題等	<p>開催に際して目的を理解しない地域団体からのクレームがあり、開催時期を失うことになり、また広報方法が十分でなく、応募者数が限られる事態が重なり、開催できたのは、9月2回、1月3回、3月4回の合計9回のみであった。</p> <p>今後は、夕食会の開催時刻時間を季節に合わせて変えること、夕食内容に変化をつけること、音楽、語り、展覧会などのイベントとともに開催すること、また、まちづくり、居場所づくりのテーマを開催日毎に選択して明確にすることで、夕食会へ出かける動機付けが明確になれば、広報の方法が回覧や掲示に偏ることがなくなり、多くの人へ広報できると考えている。</p>

池田市長 様

住 所 池田市伏尾台5丁目2-3
 協議会名 ほそごう地域コミュニティ推進協議会(伏尾台地区)
 会長名 田井 恵美子



事業の評価書

下記のとおり実施事業の評価を報告します。

事業名	伏尾台創生会議2020宣言広報事業
事業実施前の状況	<p>市の公募により平成28年1月に組織された伏尾台創生会議2020は、平成28年3月26日に伏尾台地区再生のための提言を市に提出するとともに、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を行なった。</p> <p>この宣言を聞いた伏尾台住民が、伏尾台の入り口である「新吉田橋」のライトアップと上記の宣言を広報するサイン設備を寄付してくださることになり、平成28年11月末に設備が完成した。</p> <p>市への寄付設備の贈呈が行われたが、11月からの電気代などの維持管理は協議会が行うことになった。</p>
事業実施後の状況	<p>「新吉田橋」のライトアップ装置は、コンピュータ制御によるLEDライト設備で、予め設定された日没から夜明けの夜間のみ点灯されるため、比較的安価な電気代で維持できた。</p> <p>また、住民の手で、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言が書かれた横断幕を点検することができた。</p>
事業の効果	<p>新吉田橋の欄干に設けられた横断幕は、国道423号線の北行き車線から容易に視認できるため、伏尾台地区がここにあること、子育てにやさしいまち宣言した地区であることを国道往来者に広報できている。</p> <p>また、夕方から夜間に帰宅する伏尾台住民は、ライトアップされた新吉田橋を見ることで、我が家に帰ってきたことを実感できると、好評である。</p>
今後の課題等	<p>協議会としては、電気代の支払いのみの管理しかできない。住民にとっては、横断幕の点検はできるが、その清掃や修繕などは不可能である。また、ライトアップ装置の点検維持も同様に行うことができない。</p>